

第2弾！ 音楽科公開授業

授業者 藤岡市立小野中学校 諏訪部光昭 教諭



10月9日(水)、公開授業の第2弾として、藤岡市立小野中学校において、音楽科の公開授業が実施されました。



当日は、前橋市や館林市など県内各地から40名を超える参加者がありました。また、小学校の先生にも参加をいただきました。

※本時の作曲シートが、P9～
掲示してあります。

【題材】 決まったリズムを使って旋律をつくろう(A表現・創作)

＜中学1年生＞

【目標】 自分のイメージをもち、音の高さやつながり方に気を付けながら、試行錯誤して旋律を創作する活動を通して、簡単な旋律をつくる能力を育てる。

【伸ばしたい資質・能力】

＜知識・技能＞

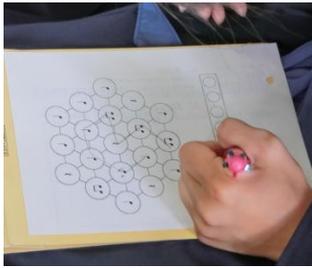
- ・自分がつくった旋律を記譜する技能

＜力＞

- ・自分のイメージに合わせて、旋律を考える力
- ・音の高さやつながり方に気を付けて、簡単な旋律を考える力

授業の様子 ①

1. リズムゲームをする



音符を選んでリズムをつくります。普段から取り組んでいるので、生徒は記譜することに慣れていました。



最初は口で言ってみましょう。次に、音符は手拍子、休符は足踏みをしましょう。



生徒が考えたリズムから代表作品を選び、そのリズムを口ずさんだり、手や足を使ってリズム打ちをしたりしました。

2. 本時のねらいをつかむ

旋律のイメージと音の高さとつながり方の関連を確認しました。また、第3フレーズのイメージと工夫しようとしていることを発表させ、本時のねらいをつかめるようにしました。



音の高さやつながり方に気を付けて、第3フレーズのイメージに合う旋律をつくって発表しよう。



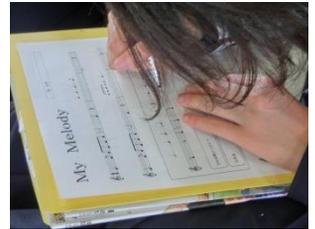
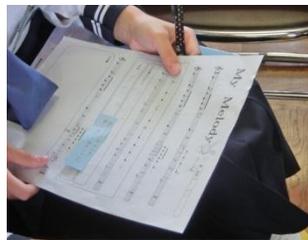
本時のねらいを黒板に掲示して生徒が意識できるようにしました。

3. 第3フレーズを創作する



全体で共通理解することを確認した上で、個々に創作を始めました。

最初は、全員が同じリズムを用いて旋律づくりをしました。



前時までの作曲シートには、付箋紙で助言を記入しておきました。



暗い感じにするためには、どんな音を使うとよさそうかな。



できあがった人はいるかな。できた人はリズムの制限無しでつくっていいですよ。



生徒の学習状況に合わせて、条件を変えた作曲シートを提示しました。

授業の様子 ②

4. 創作した旋律を発表し合う



自分のつくった旋律を聴いてもらいたいと思う人はいますか。

発表する生徒は、イメージとそれを表すための工夫を述べました。それが、他の生徒にとっては聴く観点になりました。



明るい感じから暗い感じにしたいと思いました。そのために、前半と後半の音の高さに差をつけました。

どんな感想をもちましたか？



最後は音が下がっていて暗い感じになっていました。

聴いた生徒は、参考になったことを作曲シートにメモしました。

5. まとめ

今日は、どのようなこと気をつけながら作曲しましたか。また、感想は？



少し難しかったけれど、楽しかったです。

低い音からだんだん高くして行って、また低くして、なるべく落ち着いた感じを出すことに気をつけました。



【授業研究会での意見】

<よかった点>

- ・ワークシートは非常によく練り上げられていて、生徒の作曲への負担を減らす工夫がよく反映されていた。
- ・リズムゲームを常時継続することは、記譜に対する抵抗感をなくすことに役立っていたと思う。
- ・伸ばしたい能力について、生徒のイメージを音楽の言葉に置き換えて進めているのがよかった。



<改善点>

- ・作曲では部分だけでなく曲全体のイメージも必要ではないか。つながり、盛り上がりをとらせるには、全体と部分の両方の視点が必要である。
- ・自分のイメージを表すための手段や方法がしっかり分かった上で取りませることで、生徒の意欲も高められたのでは。

【参加者の声】

- ・取扱いが難しいと思っていた創作活動の大きな可能性を見つけた気がする。
- ・創作に対して、普通の生徒が取り組めるような段階や手立てがなされていて参考になった。
- ・常時活動のリズムゲームで記譜につなげていることを本校でも取り入れたい。
- ・班別協議での付箋紙を使って表を作成する過程がとても参考になった。自校の授業研究会に役立てたい。



【授業者の感想】



今まで授業づくりにかかわるいろいろな経験をしてきたが、今回は特に授業づくりの大変さを実感できた。授業改善のために見てもらうことがいちばん大切ということがよく分かった。皆

さんのご指導をありがたく受け止め、課題を解消し、よりよい授業づくりにつながるようがんばっていきたい。

提案授業について（音楽）

本時のねらい

自分のイメージと照らし合わせ、決まったリズムを用いて試行錯誤しながら旋律を創作する活動を通して、音の高さやつながり方に気を付けて、簡単な旋律を考える力を伸ばす。



主な伸ばしたい資質・能力		学習活動
知識・技能	<ul style="list-style-type: none">自分がつくった旋律を記譜する技能	<ul style="list-style-type: none">常時活動のリズムゲームで、楽譜の記入とリズム打ちをする。「主人は冷たい土の中に」のリズムをそのまま用いて、試行錯誤しながら自分のイメージに合わせて第3フレーズを創作する。創作した旋律を発表し合う。
力	<ul style="list-style-type: none">自分のイメージに合わせて、旋律を考える力音の高さやつながり方に気を付けて、簡単な旋律を考える力	

<提案する手立て>

1 自分のイメージを表現するために思考・判断させる授業づくり

- 本時のねらいをつかむ場面で、第3フレーズをどのような旋律にしたいかというイメージを明確にさせたり、創作の見通しを考えさせたりする。
- イメージに合った創作となるよう、旋律の他にイメージや工夫点を記入できる作曲シートを配付する。
- ミニキーボードを常時使えるようにしておき、生徒が自分で創作した旋律を確認できるようにする。
- イメージに合う表現にするために、表現を試行したり、聴き合ったりする場を設定する。

2 自分のイメージを表現するために必要な技能を身に付けさせる工夫

- 生徒の創作の様子をとらえて適宜表現の技能について助言する。
- 常時活動として「リズムゲーム」を毎時間行い、4分の4拍子の基本的なリズムや記譜の仕方に慣れさせる。

<協議の視点>

- ①伸ばしたい資質・能力について
- ②学習活動や手立てについて

音楽科 学習指導案

平成25年10月9日(水) 第5校時(多目的室) 1年1組 指導者 諏訪部 光昭

1 題材 決まったリズムを使って旋律をつくろう

教材 「主人は冷たい土の中に」(フォスター作曲)、「My Melody」(教育芸術社 p.17)

2 考察

(1) 題材観

①学習内容：学習指導要領上の位置付け

A表現(3)ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。

②主な伸ばしたい資質・能力

- ・音の高さやつながり方を変えた旋律を比較して知覚・感受したことを基にイメージをもつ力
- ・自分のイメージに合わせて、旋律を考える力
- ・音の高さと音のつながりに気を付けて、簡単な旋律を考える力
- ・自分がつくった旋律を記譜する技能

③そのために必要な指導・学習活動

- ・まず、「主人は冷たい土の中に」の歌唱をして、ハ長調の音階と階名および終止感を理解する。
- ・次に、「主人は冷たい土の中に」のリズムと各フレーズの終止音をそのまま生かして、教師と生徒で対話しながら3、7、15小節目の旋律をつくる。その際、様々な旋律を意図的に試し、リズムが同じでも音の高さやつながり方が変わることによって旋律全体の曲想が変わることを知覚・感受する。
- ・また、「主人は冷たい土の中に」を歌唱したり、3、7、15小節目の旋律をつくったりしたことを基に、第3フレーズのイメージをもつ。
- ・そして、第3フレーズを音の高さや音のつながり方に気を付けながら、自分のイメージに合わせて旋律をつくる。
- ・さらに、近いイメージをもった生徒でグループを構成し、個人でつくった旋律を基に、グループでオリジナルの旋律をつくる。
- ・最後に、どのようなイメージで旋律をつくったのか、工夫した点などを発表し、グループごとにつくった旋律を演奏して、互いに聴き合う。
- ・常時活動として「リズムゲーム」を毎時間行い、4分の4拍子の基本的なリズムや記譜の仕方に慣れる。

④今後の学習の活用

- ・2年次に、アンサンブルの素材となる言葉の抑揚やリズムを感じ取り、反復、変化、対照などの構成を理解して表現を工夫した旋律を創作する学習。
- ・3年次に、リズムパターンに関心をもち、パターンどうしを組み合わせで演奏したり、全体のまとまりを工夫したりしながら音楽を構成する学習。

(2) 生徒の実態及び指導方針 (男子11名、女子20名 計31名)

①既習の学習内容

- ・中学校に入学してから創作活動は初めてであるが、小学校でリズムづくりを経験してきた。
- ・4月当初より、常時活動としてリズムゲームを行い、音符を書くことに継続して取り組んでいる。

②実態及び指導方針

<知識・技能 等>

- ・リズムゲームを継続して行うことで、二分音符(休符)・四分音符(休符)・八分音符(休符)を書くことと、4分の4拍子の基本的なリズムを手拍子で表現することは、ほとんどの生徒ができるようになってきている。今回の授業では、リズムゲームにない付点音符と音程が加わることで、スムーズに記入できない生徒が出るのが予想されるので、作業中に個別支援をする。

<思考力・表現力 等>

- ・合唱活動を通して、自分のイメージをもって表現の工夫をすることには取り組んできたが、自分のイメージをもって旋律を考える活動は初めてである。
- ・教師と生徒で対話しながら3、7、15小節目の旋律づくりを試行する活動を通して、音の高さやつながり方が変わることにより、旋律全体のイメージが変わることを知覚・感受し、自分のイメージをもてるようにする。

3 題材の目標

自分のイメージをもち、音の高さやつながり方に気を付けながら、試行錯誤して旋律を創作する活動を通して、簡単な旋律をつくる能力を育てる。

4 評価規準及び指導の計画概要（全3時間予定）

評価規準	音楽への 関心・意欲・態度		音の高さやつながり方の工夫に関心をもち、即興的に音を出しながら旋律をつくる学習に取り組もうとしている。					
	音楽表現の創意工夫		知覚・感受しながら、音の高さやつながり方に気を付けて、どのような旋律をつくるかについて、自分のイメージをもっている。					
音楽表現の技能		自分のイメージを生かすために必要な記譜の仕方などの技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。						
過程	時間	教材	主な伸ばしたい資質・能力		主な学習活動	関心	工夫	技能
			知識・技能	思考力・表現力等				
主題把握	1	主人は冷たいの中に	<ul style="list-style-type: none"> ハ長調の音階と階名および終止に関する知識 音符を五線の中に正しく書く技能 	<ul style="list-style-type: none"> 音の高さやつながり方を変えた旋律を比較して知覚・感受したことを基にイメージをもつ力 	<ul style="list-style-type: none"> 「主人は冷たい土の中に」の歌詞唱と階名唱をする。 3、7、15小節目を教師と共に全体で創作する。 第3フレーズのイメージをもつ。 	○		
	1 (本時)	マイ・メロディ	<ul style="list-style-type: none"> 自分がつくった旋律を記譜する技能 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージに合わせて、旋律を考える力 音の高さやつながり方に気を付けて、簡単な旋律を考える力 	<ul style="list-style-type: none"> 「主人は冷たい土の中に」のリズムをそのまま用いて、試行錯誤しながら自分のイメージに合わせて第3フレーズを創作する。 創作した旋律を発表し合う。 		○	
	1		<ul style="list-style-type: none"> 自分たちがつくった旋律をキーボードで演奏する技能 自分たちがつくった旋律を記譜する技能 自分や友達がつくった旋律を合わせる技能 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージや、それを表現するために工夫した点を説明する力 音のつながり方や全体のバランスに気を付けて、旋律を考える力 	<ul style="list-style-type: none"> 個人でつくった旋律を基に、グループで旋律をつくる。 グループごとに発表する。 			○

5 本時の展開

- (1) ねらい 自分のイメージと照らし合わせ、決まったリズムを用いて試行錯誤しながら旋律を創作する活動を通して、音の高さやつながり方に気を付けて、簡単な旋律を考える力を伸ばす。
- (2) 準備 作曲シート、ミニキーボード
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 リズムゲームで、楽譜の記入とリズム打ちをする。	5	○リズムゲームを全体でするときは、活動が単調にならないように休符が多く含まれているワークシートを提示する。
2 本時のねらいをつかむ。 ・自分のイメージは～な感じだから、なるべく高い音を使った旋律をつくりたいな。	5	○旋律のイメージと音の高さとつながり方の関連を、前時の活動から確認する。 ○第3フレーズのイメージと工夫しようとしていることを発表させ、「音の高さやつながり方に気を付けて、第3フレーズのイメージに合う旋律をつくって発表しよう。」という本時のねらいをつかめるようにする。
3 第3フレーズを創作する。 ・第2フレーズとのつながりを～にすると～な感じを出せるから記譜してみよう。 ・実際に音を出してみると、隣り合った音を並べたときにはなめらかな感じ、離れた音を並べたときには派手な感じになることがわかったな。 ・A君は、自分のイメージを生かすために、だんだん音の高さを高くしていたな。自分も参考にしよう。 ・落ち着く感じで第3フレーズを終わりにした方が第4フレーズとのつながりがよいので、だんだん音が下がっていくような旋律に直そう。	25	○イメージに合った創作となるよう、旋律の他にイメージや工夫点を記入できる作曲シートを配付する。 ○イメージが似ている生徒同士でグループをつくるとともに、創作した旋律について助言し合うよう促し、互いに学び合って創作が行えるようにする。 ○ミニキーボードを各グループに配置し、生徒が創作した旋律を実際に音に出して確認できるようにする。 ○机間巡視をしながら、イメージや工夫した点などを問い掛けたり、音のつながり方などを例示したりして、試行錯誤しながらイメージと実際の旋律を結び付けられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">◇盛り上がるイメージを出すためにだんだん高い音になる旋律にするなど、イメージを生かすために音の高さやつながりに気を付けて表現を工夫している。 (観察、ワークシート)【工夫】</div> ◎なかなか創作が進まない生徒には、小節ごとに和音の構成音を記したワークシートを渡し、その中の音を選択して創作できるようにする。
4 創作した旋律を発表し合う。 ・自分のイメージと工夫したポイントを発表してから演奏すると、自分の作品を見直すきっかけにもなるな。	10	○自分のイメージに合わせて創作した旋律を紹介する時間を設け、互いの旋律のよさを参考にしながら表現を高めていけるようにする。 ○作品を紹介する際には、イメージと工夫したポイントを発表するように促し、鑑賞者の聴く観点にできるようにする。
5 本時の学習のまとめをする <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><表れてほしい生徒の意識> 音の高さや、並び方を変えることによって、曲のイメージが変わるんだな。</div>	5	○本時の学習で気を付けたことや創作活動の成果について発表させ、本時で気付いたことや学んだことをまとめられるようにする。 ○これまでの取組のよさを賞賛したり、次時の予定を知らせたりして、意欲的な活動が継続できるようにする。

板書計画

音の高さやつながり方に気を付けて、第3フレーズのイメージに合う旋律をつくって発表しよう。

前時の学習内容が記入してある拡大楽譜

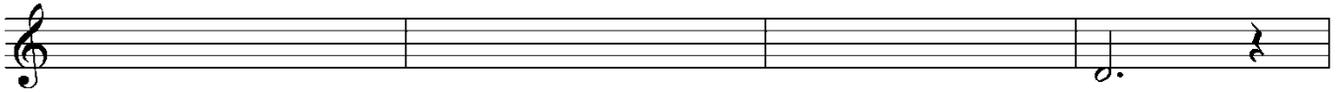
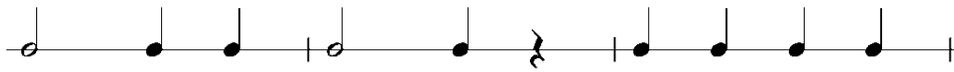
生徒の気づきを
板書するスペース

生徒のつくった旋律を映し出す
スクリーン

My Melody

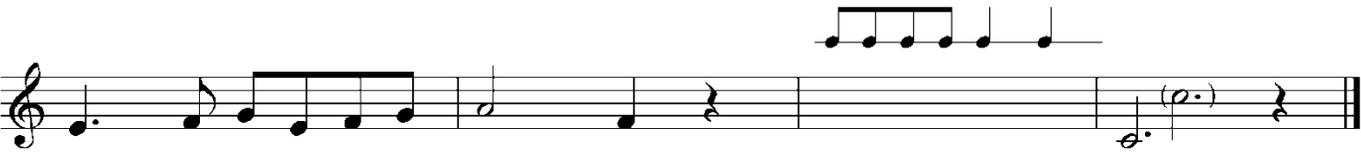
番 名前

通常用作曲シート



どんな感じにしたい？

工夫点

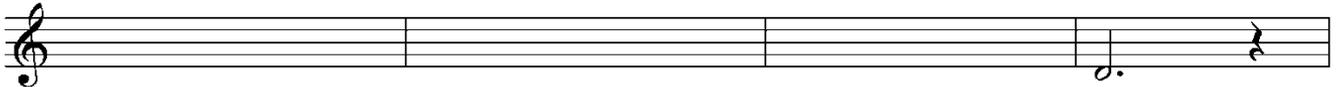
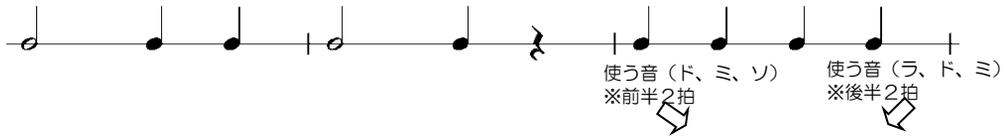
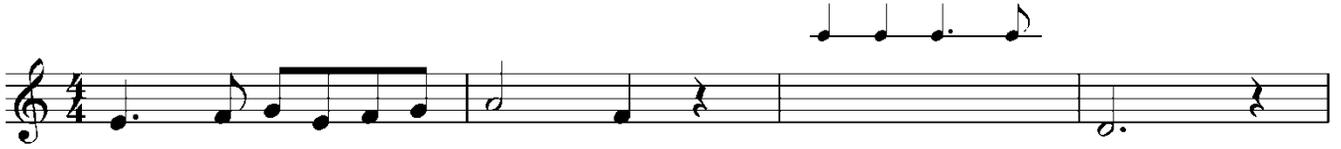


メモ欄

My Melody

番 名前

補充用作曲シート



使う音 (ファ、ラ、ド)

使う音 (ド、ミ、ソ)

どんな感じにしたい?

工夫点

使う音 (ド、ミ、ソ)
※前半2拍

使う音 (ソ、シ、レ、ファ)
※後半2拍

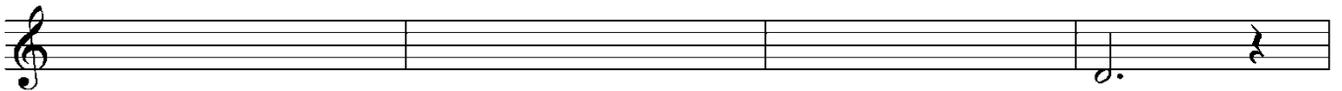


八長調の音階



My Melody

発展用作曲シート



どんな感じにしたい？

工夫点



八長調の音階

